

地域や世代をつなぐ役割として「すべての子ども・子育て家庭」を対象とし、切れ目ない支援を行う。

第5章 乳幼児を持つ家庭への対応 ▶ P45~

- ★市民にとって身近な児童館は子育て支援の地域拠点
身近な雰囲気を感じることができる場所を保護者は必要としている。児童館の「子育てひろば」はそのニーズに合っている。
- ★気軽に利用できることをアピール
気軽に利用できる児童館は保護者にとっての「居場所」になる。子育て仲間との交流が、不安の解消や虐待等の課題の発生予防にもつながる。

乳幼児家庭に対する児童館に求められる機能・役割

- 子育て中の親子への居場所の提供と交流の促進
- 課題を抱えた家庭に対する支援
- 乳幼児の遊びに対する支援
- 子育てに関する様々な情報の提供
- 子育て全般（保健・福祉・医療）に関する相談支援

- ★他機関との連携が重要
児童館が全ての子育ての課題に対応できるわけではない。複合化・複雑化する課題に対応するために、他の福祉・保健・医療機関との連携をし、支援していくことが必要である。
- ★切れ目ない支援を果たす可能性
保護者への切れ目ない支援はもちろんのこと、子ども自身にとって切れ目ない成長・発達支援を担っている児童館は可能性を有している。

第7章 中高生世代への対応 ▶ P61~

- ★青少年ステーションCAPSの運営
全国的にも珍しい中高生世代特化型児童館として、その運営は手探りなものから安定的なものへとになっている。更に特化型の強みを生かし、他の児童館との連携が期待される。
- ★市東部地域に同様の施設（機能）を期待
CAPSが市西部地域に位置しているため、特に東部地域の中学生には利用のハードルが高い。同様の施設設置や機能を既存児童館に付加していくことも考えられる。
- ★「居場所」「寄り添い」機能の必要性
子ども・若者支援施策との連動により課題を抱える中高生世代を支援することも重要であるし、CAPS

- や児童館を身近な居場所として選択してもらえるような周知も必要となっている。
- ★特化型児童館の検討
全館が中高生対応に求められる役割を發揮することは難しいことが想定される。機能を特化した「特化型館」などを複数設定する案もある。
- ★中高生世代に積極的に関わるボランティア
市内に在住・在学の学生等の若い世代が、ロールモデルになると思われる。
- ★「次代の親」をイメージする
中高生世代は次の親である。痛ましい事件や児童虐待を生まないように、命を実感できる取組が必要である。切れ目ない支援のゴールであり、スタートになる。

中学生・高校生世代に対する児童館に求められる機能・役割

- 自宅、学校以外の第3の居場所（サードプレイス）
- 中高生世代の遊び、自主的な活動の支援
- 課題を抱えた子ども・家庭に対する支援
- 市民の参加・連携による事業推進
- 次代の親育て

第6章 小学生への対応 ▶ P53~

- ★学童クラブを併設するメリット
学童クラブを併設していることにより、子どもたちの遊びが豊かになり、友人関係の広がりやつながりを維持することができる。メリットを生かす運営が必要である。
- ★ユーフォーや地域の学童クラブとの連携
地域全体の子どもを支える、という視点が児童館には求められている。出前児童館のようなアウトリーチなど、ユーフォーや学童クラブとの連携が期待されている。

小学生に対する児童館に求められる機能・役割

- 小学生の遊びに対する支援（様々な体験、次世代育成）
- 課題を抱えた子ども・家庭に対する支援
- 放課後の居場所に対する支援
- 遊びの価値に関する情報発信・啓蒙
- 市民の参加・連携による事業推進

- ★地域の人など多様な人との関わりが必要
社会変化に伴って、児童期に必要なコミュニケーション能力が身につけにくい現状がある。防犯・防災上の不安を軽減するためにも多様な人との関わりが求められる。
- ★遊びの重要性を伝えていく必要性
遊びは子どもの育ちにとって、身体的成長、心理的・機能的発達などの面から重要である。保護者や地域住民の方への理解を促進することが必要である。
- ★関係機関や地域住民との連携による支援
子ども・子育て課題に対して、地域の福祉施設としての役割を發揮することが必要である。問題の早期発見や関係機関との連携・協力で課題解決することが期待されている。

第9章 もとめられる職員像 ▶ P77~

- 職員の資質
どのような専門性が必要かを時代変化に対応して検証していくことが必要である。
- 子どもにとって必要な人材を児童館に残せる仕組み
児童福祉施設として、必要な人材が児童館に集まることが期待される。
- 課題に対応できる人材の確保、育成
児童館にはますます福祉的課題へ対応する能力が必要となる。包括的な視点を持って、課題解決をはかる人材が期待される。
- コーディネートする力
児童館の活動は多岐に亘るため、多様な人や組織とつながることが必要である。コーディネートしていく力が求められる。
- 館長の運営管理（マネジメント）力
館長のマネジメント力が期待される。館長登用や育成システムを検討する必要がある。

第8章 地域の子育て環境づくり ▶ P69~

- ★地域ニーズを的確に把握すること
児童館では、地域にある子ども・子育てに関する情報や課題の共有を積極的に図る体制づくりをしており、そこから地域のニーズを把握している。
- ★児童館が関わってきた地域活動
市民による子ども・子育て支援活動を支援してきた児童館の取組は地域に根付いており、今後も期待される。また、今後新たに発生する地域課題に対して市民が対応することを、児童館は側面的に支援することができると考えられる。

- ★課題に対応する地域のネットワークへの関与
既存組織・団体との連携はもちろんのこと、時代に合わせて新たに生まれているネットワークや関係機関、専門職との連携が期待されている。
- ★子ども・子育てに関わることは未来のまちづくり
子どもや子育て家庭に対してやさしいまちをつくることは、全ての人にとって住みやすいまちにつながる可能性がある。

地域とともにある児童館に求められる機能・役割

- 身近な子ども・子育ての相談窓口
- 地域住民と利用者（子ども・保護者）の交流促進
- 地域住民の子ども・子育て支援活動の支援
- 多様な課題に対応する地域のネットワーク形成
- 子どもと子育て家庭を包み込むまちづくり

第10章 今後の児童館のあり方 ▶ P83~

検討委員会の提言 2つの視点と4つの提言

- 「地域に密着した総合的な子ども・子育て支援の拠点」
提言1：切れ目ない支援
提言2：センター機能型児童館を中心とした均衡のとれた運営
世代ごとに分断した支援を展開するのではなく、切れ目なく支援することができる体制が必要である。0歳から18歳まで、子どもが通い続けることのできる児童館の切れ目ない子ども・子育て支援が継続されることを期待する。そのための体制整備が求められる。

- 「地域とともに創り上げる子ども・子育て支援環境」
提言3：地域包括支援の視点からの児童館運営
提言4：市民や多様な人材の参加・参画
ニーズの多様化、抱える課題の複合化、必要な支援の複雑化などにより、単独の機関では課題解決に至らない事例の存在も顕著となっている。包括的な支援体制の中において、児童館が地域の主体的な活動と有機的に連携し、子ども・子育てを包摂する豊かなコミュニティづくりを期待する。